

令和元年度第1回瀬戸市図書館協議会
議事録（案）

日時：令和元年7月8日（月）午後1時26分から3時19分まで

場所：瀬戸市立図書館 1階 集会室

出席者：14名

<会長> 中井 孝幸

<副会長> 加藤 和守

<委員> 石川 良文、臼井 和人、加藤 絹子、金谷 みどり、新海 弘之、
丹羽 光成、福田 直美

<事務局> 教育長 横山 彰、教育部長 林 敏彦、図書館長 吉村 きみ、
図書館主事 村井 理紗子、臨時職員 細川 かおり

欠席者：なし

傍聴者：2名

議事内容：

1 開会

事務局（図書館長）進行

- ・会議成立の報告
- ・傍聴者へ注意事項の説明
- ・委員へ議事内容記録のための録音の説明

2 あいさつ

○教育長

ご多用の中ご出席いただき感謝申し上げます。日頃は、図書行政に留まらず、教育施作全般に対してご理解とご尽力いただいていることを重ねて感謝申し上げます。さて、本市の図書館の整備については平成27年度に瀬戸市立図書館整備基本構想を策定し、その後、様々な協議検討を行ってきた。候補地を5か所選定し、具体的な利活用の可能性について探ったが、最終的には、現施設を継続利用する方針となったところである。このような経緯のなかで現在は構想策定を通じていただいたご意見、その後いただいたご要望をもとに、順次改善をしているところである。本日は、委員の皆様から現図書館への意見聴取、どの機能を残してどの機能を捨てて、またどの機能を付加するか、そういったことを考えていかなければいけないと考えている。より市民に愛される図書館となるよう一丸となって取り組んでいくので、委員の皆様には忌憚のない、活発なご意見をお願いし挨拶とさせていただきます。

（教育長退席）

○事務局（図書館長）

- ・ 資料確認

3 議事

○事務局（図書館長）

議事に移る。議事については、瀬戸市図書館協議会条例第8条第1項の規定に基づき中井会長を議長として進行をお願いする。

○会長

暑い日にお集まりいただき感謝する。事務局の顔ぶれも大分変わり、私が担当して2年目を迎えたが、しばらくはこの図書館を使い続けるということが決まったということで、どのようにサービスというものを考えていくのかというご意見をいただければと思う。今日はその時間を少しとって皆様と議論させていただければと思う。

たまたま昨日まで、滋賀県の長浜市と東近江市に行ってきた。長浜市はうまく新しい図書館が建設されることになったのだが、9つの地域が合併されて、現在6館の図書館があるのだが、一つ大きな中央館を新しくするというので、古い図書館をどうするのかということをも市民は気にかけている。新しいのができるともう使われなくなって、いらないんじゃないかなどと言われているが私は違うと思っている。今まで使っていた人たち、例えば子どもさんが大きくなって使わなくなった人たちが新しい図書館ができたことによってまた利用しようと思った時に、新しい図書館で借りて、返すときは、身近な図書館で返す。皆様借りに行くのはおっくうではないが、返すのがめんどくさいというのがあるので、意外と新しい図書館ができることによって、需要が掘り起こされ、今まで使っていなかった人がまた使うようになるのではないかとということも期待しながら、地元の図書館が本の返却のためにまた使われるようになるかもしれないということが、読み取れるといいなと思っている。

瀬戸市の本館の図書館でも、今日拝見したところ、子どもたちのカーペットが新しくなっており、ああいったものが新しくなるだけでも雰囲気が明るくなるので、良い改修をしていただき、利用者の方が来ていただけるような改修を計画していけばまた戻ってきける方もいるのではないかと。新規に開拓するというのもあるが、利用が遠のいた方々をもう一度呼び戻すというのがこれから大切になってくるかもしれない。昨日長浜市と東近江市に行ってきたことから学んできたので、今日はそういった時間をしっかり取り、皆様から様々なご意見をいただきたいと思いますので、今日一日よろしくお願いします。

（1） 報告事項

ア 平成30年度瀬戸市立図書館利用状況について

事務局（図書館長）より資料1に基づき説明

○会長

ご意見等あればお願いしたい。

今瀬戸市の人口は何万人か。

○事務局（図書館長）

13万人弱である。

○会長

貸出密度は何冊くらいか。

○事務局（図書館長）

5. 1冊くらいである。

○会長

地域図書館は、学校図書館を開放しているもので、瀬戸市独特の取組であるが、1館新しく増えて現在6館体制で、それが伸びてきているということだが、本館が増えているのはどうしてか分からないか。全国どこでも減ってきている中で、貸出冊数が増えているのは大変よいことである。新しい地域図書館が開館しているので、地域の人たちが使えるようになったということと、子どもたちの利用も増えてきているのかもしれないが、サービスポイントが増えたことで増えてきているというのはあると思う。

○委員

利用者数についてですが、光陵の図書館で新規で利用するようになったのは何人かということは分からないか。

○事務局（図書館長）

新規で利用登録があったということは、データとしてはとっているが、ここには載っていない。

○委員

利用している人は、ほとんど同じ人だと思うが、新しく利用するようになった方がどのくらいみえるのかと。

○事務局（図書館長）

業務日報を出してもらっているので、資料として後程お出しするが、光陵中学校での新規利用はあったかと思う。

○委員

人口がどんどん減っていっている中で、団地もどんどん人口が減っていき、当然利用者数は減っていくと思うが、新しい方はどのくらい見えるのかと思ったのだが。

○事務局（図書館長）

また後程資料をまとめてお出しさせていただく。

○委員

本館の利用者数の増加について、未就園児対象の読み聞かせの日を増やした効果があると思う。

○事務局（図書館長）

平成29年の1月から毎日の平日の読み聞かせを行ったので、委員にも読み手として参加していただいているが、確かにそのような効果もあるかと思う。実は昨年度貸出冊数が減っており、それを戻した形になっているのかなということも、数字的にはあるかと思う。しかし、人口が減っているなかこの数字を保っていることは、やはり利用者が増えているというふうに評価してもいいのではないかと考えている。

○委員

新規登録の2,470人という、新しくここをお使いになった方の年齢構成について、感覚的にでも結構だが、気が付くことがあれば教えていただきたい。

○事務局（図書館長）

年齢構成がまだ分析できていないため、今日の資料としてはお出しできなかったが、登録いただいてご利用いただいている方で人数が増えている年代は、70歳代である。

○委員

それは、70歳代の方が戻ってきたと考えればよいのか。改めて登録されたということか。70代になって新規に登録されたということか。

○事務局（図書館長）

いえ、70代になって登録ではなく、今回出したデータが、登録している人の中でご利用いただいた方の統計を出したときに70代がぐっと増えているということなので、新規かどうかという出し方はしておらず、そのあたりはちょっと分からない。

○委員

大分違う観点になるが、10ページの利用者用パソコン利用状況について、人数はこのくらいで増加しているとのことだが、台数の過不足についてはどのような感覚をお持ちか。これは、協議事項のエ、現図書館の改修計画と関連するが、これからどのように改修していくかということに大きく影響すると思う。現状はパソコンのあるPCルームを設けていることでスペースが必要となっている。その必要性の議論のためにも利用の実態について感覚的なもので結構なのでお聞きしたい。今、多くの方がスマホやパソコン、タブレットを持ち、いろんなインターネットの情報が得られるようになっているが、インターネットの3台というのは具体的にはどういった利用をされているのか。実は先ほど、会議が始まる前に見に行った際に、PCルームの利用状況を見たところ、あまりいい利用をされていないように思った。履歴を見れば分かると思うが、どういった利用をされているかということをつかれば教えていただきたい。

○事務局（図書館長）

パソコンの台数は、足りていると思っている。利用の方法について、履歴が残らないようにしているのが、感覚としては、やはり、図書館としてはインターネットの利用は紙の媒体の本で調べ切れないことを補完するために設置をしたのだが、その目的とは反して、図書館として使っていただきたい利用の仕方はされていないという現状がある。また、今

瀬戸市の施設は、wifi が設置されたこともあり、その観点から言っても、パソコンルームのインターネットの利用については今後考えていかなければいけないと思っている。また、今年度増えた利用として、インターネット 3 台の下に、CD,DVD の視聴というのがあり、こちらの方の利用が、先ほど少し触れたが、映画を見たり、DVDを見たりして長時間そこに座って、映像を見られるという滞在型の利用者が増えたということがここにあるが、そのようにDVD視聴の方が増えているという傾向は言えるかと思う。

○会長

その他どうか。今ご指摘を色々いただき、戦略を練るうえでも、こういった分野が伸びたり増えたりしているか、そういったあたりにサービスをあてていくということもあるかと思う。細かいことは、次回にでも出してもらおうとして、何年度かの経年変化が分かるものが少し整理されると私たちも分かりやすいので、そういった資料も、次回には用意していただきたいと思う。

イ 瀬戸市子ども読書活動推進計画（第三次）について

事務局（図書館長）より資料 2 に基づき説明

○会長

ご質問等ございますでしょうか。

図書館が実際にこれからしていくことは、資料の 5 でまた後で説明があるかと思う。切れ目なく子供たちの読書環境をサポートしているということが大切かと思う。図書館だけががんばってもだめだし、学校図書館だけががんばってもだめなので、家庭から、色々なところで、こういったことに取り組んでいかなければいけないと思っている。

また、実際の活動についてはにまたご質問等していただければいいかと思う。

一旦ここで、報告事項を終わりにし、協議事項に移りたいと思う。

（２）協議事項

ア 令和元年度図書館事業計画について

事務局(図書館長)より資料 3 に基づいて説明

○会長

ご質問等はあるか。

○委員

館長は今、秋の図書館まつりの時を中心に、お話し会を行うとおっしゃったが、4月23日の子ども読書の日をメインにやっている長久手などは行っている。もし、瀬戸市でもやりたいということがあればもう少し事前に言ってもらえると、ボランティアで協力できる部分もあると思うので、4月23日も、力を入れてもいいのかなと感じた。

○事務局（図書館長）

ありがとうございます。実は、子ども読書の日である4月23日、キッズルームということで、この集会室をキッズコーナーとして行っている。ボランティアにご協力いただくときは、もう少し早めをお願いしていかなければいけないというふうにする。

○委員

そうではなく、4月23日、その日に他のところは、ボランティアを集めて、おはなし会という形でやっているところがある。そのようにすると、利用者の方に、4月23日はそういう日なんだなという意識が生まれる。長久手や、日進、尾張旭では行っているのでも、もしそのようなことを計画に入れるのであれば、早めということである。

○事務局（図書館長）

ありがとうございます。来年度に向けて検討したいと思う。

○委員

イベントを色々と計画され、実行されているが、そのイベントが終わった前後に、関連した本が利用者の方の手に渡るような、関連した展示というのも行っているか。

○事務局（図書館長）

はい、関連図書の展示も、すべてのイベントとは言えないが実施している。

○委員

水南保育園は、この地域の保育園で利用させていただいているが、図書館のイベントやお祭りというのは、広報でお知らせですかね、あと他に、例えばチラシポスターを園に貼るなどあればもう少し宣伝できると思うが。そうすれば、もっと行こうかなというふうになると思うが。

○事務局（図書館長）

すべてのイベントで、チラシの作成が間に合っていないので、今後は、計画的にチラシやポスターを作って、保育園さんにご協力いただく形にしていきたいと思う。

○会長

少し教えていただきたいのだが、市内施設支援等というところについて、先ほどの、子ども読書活動推進計画の中でも、切れ目なくサポートということで、ブックスタートに始まり、小学校に行けば学校図書室、6館だけ地域図書館にされていたりするが、未就学というか、保育園や幼稚園児のような小学校に行く前の子どもたちにはどういったサービスをされているか。

○事務局（図書館長）

未就園の子どもたちへのサービスということで、まだ、保育園・幼稚園等に行っていないお子さんたちの読み聞かせとして平日毎日11時から児童室の絵本コーナーのところで読み聞かせを行っている。これは、ブックスタートを6か月検診で行っているがその時に図書館で毎日11時から赤ちゃん向けの読み聞かせやっていることを大いに宣伝して、着実に参加している人が増えているところである。

○会長

幼稚園・保育園の支援は何かされているか。

○事務局（図書館長）

ボランティアさんに読み聞かせに行っていたり、保育園・幼稚園ではなかなか本が揃わないということで、団体貸出を行っている。

○委員

保育園に関しては、こども未来課と図書館ボランティアと協働して『すくすくふれあい広場』の中で親子で楽しく読み聞かせ講座を各保育園や幼稚園へ行って実施している。その点は、主催がこども未来課だが図書館とも連携してやっている。

○会長

小学校は学校図書室というのでちゃんと本が置いてあるスペースがあるが、幼稚園や保育園は多分、設置基準に図書室がないので、そんなにかちっとしたものが整備されていないのではないか。

○委員

そうですね、しかし、ある程度は整っている。一週間に一回は園の本を貸出している。

○会長

本がどこにあるというのがしっかり分かる状態がいいのかなと思うので、それは色々協議していただきながらサポートしていただきたいなというように思う。

その他、特になければ次に移る。

イ 令和元年度資料収集計画について

事務局（図書館長）より資料４に基づき説明

○会長

ご質問・ご意見等はいかがか。

○委員

私は、読み聞かせをしている関係上児童書の関係で、どうしても地域図書館の方が読んであげたい本が多く、本館にないということがあり、できれば本館だからこそ、複本という形でもいいので、置いておいてもらえると大変助かる。特に、なかなか子どもは流行りに乗ってきれいな本を手取るが、ちょっと古い本や読み継がれて行って欲しいという希望の本が、だいたい破棄になっていて、書庫にいて、廃棄処分されて残っていない場合が多数あって、うちのボランティアグループのものたちが残念な思いをしている。地域図書館にはきれいなまま残っていることが多い。そういった本は、地域図書なので、学校で購入しており、こちらに取り寄せはできない。地域図書館に行かないと借りれない不便があるので、そういうところを何か解決できないかと感じている。

○委員

学校図書所有のものは、借りられないのか。

○委員

その学校に行かないと借りられない。

○事務局（図書館長）

学校の予算で買っている本については、学校の協力を得て、地域図書館に来て下さった方に貸出をして、そこで返していただくというところのご協力はいただいているのだが、本館に取り寄せての貸出というのが制限をかけているところである。また、地域図書館にしかない本で手に入るものは、極力本館で複本で持てるようにしているのだが、利用者の方に予約カードなどでご意見をいただかないと把握しきれないところもあるので、もう少し、利用者が何を所望されているということが、選書側に届くようなしくみをつくる必要があるというふうに考えている。

○会長

本館で検索したときに、地域図書館の本がひっかかるのか。

○委員

窓口で「地域図書館にはある、地域図書館に行けば借りられる」と案内をいただく。なので、学校で購入されている書籍の把握はされているが、学校で購入されたものなので、図書館での貸出は、その学校に行ったらという限定になる。

○会長

学校の図書館の資料は、学校の予算で買っているのか。半分半分か。

○事務局（図書館長）

学校の予算で買っているものと、地域図書館なのでこちらから持って行っている分がある。冊数としては、2対1の割合で、学校が2、瀬戸市立図書館が持っているものが1という割合で持って行っている。

○委員

まず、本館でちゃんと充実するというのは大事だと思うが、関連した話で、大学コンソーシアムの方は、他のところから借りられる。例えば、名古屋学院が持っている本をここで借りるということはできると思うがどうか。

○事務局（図書館長）

はい、名古屋学院大学からお借りして、パーティセとや、本館で貸出をするということも行っている。

○委員

大学図書館と瀬戸図書館の連携では出来ているのに、瀬戸市内の学校との連携ができていないというのはどうなのかなと思う。

○事務局（図書館長）

ただ、学校図書館の機能を損なってはいけなかったので、この資料は本館取り寄せはやめてほ

しいという本に関しては、できないようにしているので、そこはやはり瀬戸市立図書館として複本で持っていくという方向で今進めているところである。

○委員

学校は授業で使う本を、優先的に各教科の先生から希望をとっているところが少し違いますね。

○委員

そうですね、やはり自由研究の時期になってくると理科関係の本がということが割とある。

○委員

9月になると戦争教材がということもある。

○委員

逆に、学校でその本が本館から借りたいといった場合借りられるのか。

○委員

学校貸出できる。

○委員

カードは同じなのか。

○事務局（図書館長）

はい、同じカードです。

○会長

これはなかなか難しい話で、予算も限られている中、複本をたくさん持つというのは、なかなか難しい。子どもさんがよく読まれる本は学校図書館で重点的に揃えていって、本館は、小さな子どもたちと大人だけにして、そのかわり本は回すという考え方も一方であるし、限られている予算が、2,400万ということで、そんなに潤沢ではないなと思っているので、なかなか買えないんだろうと思うので、上手にあるものを、もともと瀬戸市で買っているものではあるので、シェアできればいいのではないかなと思うが。確かに学校が使いたいときにその本が借りられているということになると、なんでということがあるとは思うが。上手に回していかないと、予算も限られている中、上手に幅広く本を揃えていくということがなかなかできないのかなと思ったりもする。バランスが難しいと思うので、悩みながら、利用の状況なども見ながら、決めていっていただければと思う。無ければ無いなりに何かいいアイデアがあれば取り組んでいっていただきたいと思う。

○会長

その他ご意見はあるか。

○委員

ここでは、情報ライブラリーが別建てで出ているが、情報ライブラリーと本館の資料構成については、取り決め、考え方があるか。

○事務局（図書館長）

情報ライブラリーにどのような本が必要か、どのような利用者層があるかということをまだ分析しきれていない面もあるので、今後はそういったことも考慮して取り揃えていかなければならないと思うが、予算上、財政担当が事業ごとに予算を付けるため、便宜上分かれてはいるが、選書基準としては、オール瀬戸で、全体として考えて選書している。その中で、情報ライブラリーでよく動く本を、本館から持っていくという運用をしている。予算上分かれてはいるが、情報ライブラリー用にこれを買うということは、今のところしていない。

○会長

今新海委員からご意見あったように、利用者層は異なると思うので、そういったことも今後考えていくのもいいかもしれない。分けると何か不平等が起こるかもしれないが、パルティセと図書館の位置関係であれば、それほど離れているわけではないので、できればその蔵書構成で分担ということも考えていただいてもいいかなと思う。

その他なければ次の協議事項に移りたいと思う。

ウ 子ども読書活動の主要事業について

事務局（図書館長）より資料5に基づき説明

○会長

ご意見等あれば。

○委員

主要3つの中、ブックスタートは、やすらぎ会館で6か月検診の赤ちゃんのところにボランティアとTRCの職員が行っているのだが、あとの読み聞かせのお話し会や、高校生ビブリオバトルは、やはり宣伝していくことが大事ではないかと思っており、告知の方法に色々問題があるのではないかなと感じている。特に、ビブリオバトルは、中学生に聞いてもらいたい。中学に行ってやってもいいぐらいだと感じている。子どもたちが友達同士で図書館に来るといっても、できれば光陵中の地域図書館で行うなど、人数が多い南山中や、虹の丘学園もあると思うが、そういった開催地を移動してやっても効果があるのではないかなと思うがいかがか。

○事務局（図書館長）

今後は、聴いてほしい人たちのところに出向いてやっていくということを考えていければと思っている。今年度はもう、大学コンソーシアムせとの方で、大学生に集まってもらって進んでいるところなので、今後こういった意見もあるということを学生運営委員にも伝えながら、今後そういうふうに展開していけたらいいなと思っている。

○新海委員

ビブリオバトルについて、愛知県図書館でも過去に何回も行っているが、実際にやってみて思うことは、ビブリオバトルでその日にチャンプ本が決まり、その後のフォローが何かで

きないかなと思っている。ビブリオバトルでチャンプ本が決まった後に、実際にチャンプ本を読んでみた子たちが集まるような、次につながるような、フォローアップができるようなイベントも続けながら、一回だけのイベントに終わらせないということは、他の事業でも一緒だと思うが、そういう考え方も必要かなと思う。

○事務局（図書館長）

今後、そのような形で進めていけるように検討していきたいと思う。

○会長

こういう活動をきちんと残して、発信していくのが大事ではないかなと思っている。いつでも見られるようにホームページだったり、若い人たちはSNSだとかを見る方が早いかもしれないので、そういったところで告知など、PRをしていくというの也被れるといいのではないかなと思う。せっかくそういう活動をされているので、記録として残して、発信していくのが大事なのではないかなと思う。それが次に残っていくかもしれないので、きっちり記録をとってそれを発信するということを是非やっていただければと思っている。

そのほかどうか。第3次が出来たので、こういったことも含めて色々活動していくことと思いますので、それはそれで気づいたらご意見いただきたいと思う。

それでは、時間残り30分程度になったが、現図書館の改修計画への意見聴取ということで、これも事務局の方から説明をお願いします。

エ 現図書館の改修計画への意見聴取について

事務局（図書館長）より資料6に基づき説明。（館内写真のスライドを用いて説明）

○会長

時間も来ているが、できたら委員1人ずつ意見を伺いたいと思う。

○委員

ざっと中身を見せていただいて、全体的に暗いイメージである。もう少し明るい雰囲気になるといいのかなということで、どういう風にするのかというのは分からないが。

ベビーコーナーが2階というのは不便ということで、1階の余っているどこかにあるとちょっと使用しやすくなるのではないかなと感じた。

○委員

2階のギャラリー室について。以前は、本当にギャラリーであったが、今は、机と椅子が置いてあって、学生たちの勉強スペースに活用されている。本当に今必要とされているのは、PCを置くよりも勉強する学習室である。学習室がない図書館はもちろんあるが、今瀬戸市民で要求されているのは、そこかなあと。情報ライブラリーの前のフリースペースも結局学習している子どもたちでいっぱいになる。なので、そういう所が必要かなと感じた。もちろんこのPCルームは、何を検索しているのか図書館で把握できない場所にあるというのもすごく問題であると思う。それこそ無くすのであればここを無くしていくというのも一つ

の選択肢ではないのかなと感じた。

○委員

たくさんの本を買うことは他の市に比べて多いように思うが、すごくぎちぎちにつめるしか方法がないということは、本は多いが入れるところがない。新しい本を買ったら今まで買った本をどうするかということで、私たちはオープン開架で目で見えることはなかなかできない。だから、本棚をどう増やすかと言ったら、近くの郷土資料館を使うことを考えたり、本棚をどう増やすか、土地をどう増やすかということも考えておかないとせっかくの本がだめかと思う。

それから先ほど言えなかったことをひとつ。学校での協力のことについて、今学校は変換期に入っていると思う。だけど朝読書ということをやっているが、その朝読書もそこに勉強が入ってしまったりして、学校によってはできない状況になっているかと。そういった状況であることを館長が年2回の主任者会議で、その時に学校の様子やこれが必要であるかということを知ることと、せっかくこういったデータが出ているので、図書館の方ではこういったことがありますよということ、いろんな学校の図書主任の先生に知らせてほしい。図書主任の方は、自分の学校のことは知っているが、他の学校のことは知らないことが多い。そういうことで、学校に対する図書館の協力も考えられるかと思う。

○委員

まず、今日のあいさつの冒頭の中に、図書館自体を新しく作ることはなくなったという話があり、市全体の予算の関係もあると思うが、この状況はとてもよろしくない。お金のかかる話になってしまうが、改修を真剣に考えていきたいと思いますというところなのでお話をさせていただくと、まずは、個別の意見を参考にして進めるのは大事だが、今使われている方のほかに、今利用が減っているがこういう人たちに本当は利用してほしい、教育的な面からも子供たちに多く使ってほしいなど、色々なニーズを聞くのが大切だ。そういう意味では、改修計画も、しっかり、改修のための基本構想というか、理念的なところからしっかり立てて進めるのいいのではないか。ここが問題だから、ここが問題だからとつぎはぎのリフォームのように改修を進めてしまうと、市民の満足度も何ポイントかは上がるが今まで利用しなかった人が利用するということまではいかない。そういう意味ではしっかり計画を立てて、お金がどこまでかかるかは政策的判断だとは思いますが、しっかり進めなければならない。もっと言うと、瀬戸市は6次総の中で、「住みたいまち 誇れるまち 新しいせと」を掲げている。多分子どもたちにとっても、私個人の立場でも瀬戸の図書館は誇れるものではない。新しい市民の人たちも含めて誇れる図書館であってほしいと思う。新築ではなく改修だとしても個人的にはもう少し明るい雰囲気、老朽化したのが完全に変わったなという感じにしてほしい。つぎはぎのリフォームのような形から、リノベーションみたいな形にするのが必要だと思う。おしゃれな内装で、若い市民の方が行きたくてしょうがないというような雰囲気にしていただきたい。それから親子が楽しめる、小さい子どもとお父さんお母さんが一緒に、日曜日図書館行こうかって言えるような雰囲気作り、中学生や高校生が学習の場で

使うということも、直接本を読まないかもしれないが、図書館がすごく身近なものになる。勉強の合間に休憩がてら図書館の本を読むことが瀬戸の図書館に親しむきっかけになると思う。そのために学習室の充実も必要だと思う。あとは全国各地、他の国々、先日フィンランドヘルシンキの図書館に行ってきたが、新しい図書館の形になっていた。これまでの50年の瀬戸市図書館からこれからの50年の瀬戸市図書館のあり方を抜本的に考えるような改修にしていってほしいというふうに思う。

○委員

私も一番きついところをつきたいが、瀬戸市は「つぎつぎ」である。どこの施設においても、そういう面を予算が無いという言い方でやられる。せっかくやるのなら、時間をかけてでもいいのでしっかりしたものを作っていただきたい。これからの未来の子どもたちのためにも、明るい場所だとかそういうことをやっていただかないと、今までの瀬戸市ではだめだと思う。最近どこの施設でも同じで、最近交流館もいいものが出来たが、それでもつぎはぎの面がある。前々から市長さんが言っていたように、やれるとってやらなかった、その分を一生懸命未来の子どもたちのために、ある程度、しっかりした規模で作っていただければと思う。今写真を見て、本当に暗い、本を読む状態の場所ではない。ですのでその辺も少し力を入れてやっていただければと思う。できるだけ時間をかけてやっていただければいいのではないかという気もするし、また時間かけて予算が減らされてもいけない。そういう面でもやはり、それなりに皆さんが楽しんで来れるような図書館にしていってほしい。私もあまり図書館にいないんですけど、写真を見ただけで本当に昔の図書館というか、小学校のような感じ。もう少し明るい、これだけ緑があるので、明るいところで本等を読んでもらいたいと思う。あまり慌ててやらなくてもいいのではないかと思います。

○委員

みなさんのおっしゃったことはもつともで、第一印象がまず暗い。せっかくなので、明るい図書館に、みんなが本を読みたくなる、学習したくなるような、学習室も暗いですね、やはり自宅では学習できないという子が図書館を利用するが、そこでも行きたくなるようなそんな改修計画への意見聴取ですので、そういうことをお願いしたいなど。

○委員

図書館が読書数を増やそう・来館者数を増やそうと行っている努力はとても伝わってきた。自分は参加しながら、学校でより子どもたちが、何か協力できることはないかと考えていた。例えばビブリオバトルを朝の委員会活動で行うなど、子どもたちが競い合ったりする場を設けたりそういうことはできないのかなと思いつながら、なかなか先ほどのお話の中で時間もなくて、と思いつながら何かできないかなと感じた。先日もネットで、スマホとかに全部とられてしまいパチンコ業界がピーク時の3分の1に減ってしまったという記事を見た。同じようなことはパチンコだけでなく野球だとか、何もかも、多分図書も同じようにスマホの方に流れていってしまっているということは、社会的な流れもあるので、ただスマホではなく、紙のにおいだとか、読書の習慣もいいよと子どもたちに伝えていけたらいいなと思っ

た。

○委員

建築のテクニカルな話は後程中井先生がお話されると思うので、私からは理念的なことをお話させていただく。現図書館の改装は、そもそも情報ライブラリーも含めて瀬戸の図書館のネットワークをどう作っていくかという基本的なところがないと、じゃあこの図書館にどういう機能を持たせるのが、一番適切なのかというところで判断が難しいのではないかと思う。情報ライブラリーをもう少し上手に使って、そこと現図書館が補完関係になり、地域図書館は学校ベースですから冒険はもちろんできないと思うが、情報ライブラリーであれば機能的な棲み分けも含めて考える余地もあるのではないかと。

基本的なところをお伺いしたいが、この図書館座席数はどのくらいあるのか。

○事務局（図書館長）

90である。

○委員

それから書庫はキャパとしては120%といった感じか。

○事務局（図書館長）

はい。

○委員

もう増築せずにやるというのは非常に厳しい。ただ先ほどから、暗いということで考えたのは、この建物は壁面が多すぎるのではないか。構造的に抜けるかということは私には分からないが、細かい部屋に分かれていることによって、無駄なスペースができてしまっているのではないかと思う。そういったところから抜本的に予算がつくかどうか分からないが、上手に使うといくともう少し全体を広く使えていくと思います。

それからこの集会室で、ビブリオバトルやお話会をされるのか。できればこのような奥まったところではなく、閉じ込めてしまうのではなくて、実際に出来上がったスペースの中で少し工夫をして、そんな場所が作れるといろんな人がそれを見ていくという環境もできるのでそういう工夫もできるのではないかと思う。

それから、細かいことだが事務室が広いような気がするが、このスペースは上手に使えるか。見ていないので分からない部分もあるが、そういったところから空間の無駄を省いていくことと、後は瀬戸の図書館全体の仕組みの中から機能を選別していく、集中していくという2つの考え方がある。両方考えながら、改修を進めていくのがいちばん無駄が少ないような気がする。

○会長

改修計画のスケジュールはいつまでにまとめるのか。

○事務局（図書館長）

予算要求は、もう今の段階でこういう計画があるというのを出していくのだが、最終的に予算が決定するのは、年内である。

○会長

ではあまり時間もかけられないということか。

○事務局（図書館長）

ただ改修は、来年でなく、今からやろうとするとまず設計をしなければならず、それをどうのせていくかで改修自体は、来年ではなく再来年になる。

○会長

耐震改修は一度やられてるのか。

○事務局（図書館長）

19年度に終わっている。

○会長

皆さんから暗いという意見があったが、昔の建物なのでガラス張りの建物ではなく、コンクリートで出来ており、耐力壁として使っているので壁を抜くことはできないと思うが、皆様のご意見をふまえて、1階の児童コーナーは動かないと考えると、子どもたちが多少騒いでもいいように、ちょっと声出してもいいというのを1階にして、静かに勉強したり読んだりするのを2階にするなどゾーニングを分かりやすくしてもらえるといいかと思う。例えば新聞と雑誌について言うと、雑誌はみんなが読めるので1階でもいいかと思うが、新聞は2階に持って行ってもいいと思う。そうするとまた階段を上っていかないといけないということはあるが、どちらかと言うと新聞は地域資料だと考えているので、静かに読むゾーンにあってもいいかなと考えているので、賑やかなゾーンと静かなゾーンを分けるというのを、そういったのを下におろしてきて静かにできるものは上にあげていくというのも考えられるかと思う。

現施設を使い続けることにしたとはおっしゃっていたが、やはり、新しい建物を作るということは言うていくべきではないかと思う。それはそれとして言いつつ、今の改修も、改修して少し雰囲気良くしたいなというのがありますので、皆さまがおっしゃっていたようにリノベーションしたのに変わらないなあではだめだろうと思いますので少し思い切って、変えてもいいのかなと思うので、書架を動かすと結構大変だなと思ってはいるが、動かしていいものは動かして、固めるところは固めて、書架が足りないというのもあるので壁ばかりなのであれば壁に壁面書架というのもあるのもありかなと。その辺は、時間をかけてというふうにはいかないか。次回この図書館協議会をいつ行うかにもよるが、チェック機能という意味で、見せていただくというのもありかと思う。協議会は、去年は年2回だったが、予算のこともあると思うが、だいたい3回くらい行うのが多いが。アイディアがまとまったときにまたやるというのもありかなと思う。事務局の方でたたき台は作っていくものと思う。

○委員

そもそもどの程度の改修をイメージされているのか、今年度予算をあげるための、来年度執行のためのものというイメージか。

○事務局（館長）

こちらの計画としては、再来年に、電灯が古いままなのでＬＥＤ化を予定しており、それを行うのであれば、部屋を直したり壁も抜けるところは抜いてしまったりすることを考えています。ＬＥＤだけやってもいいよと言われているが、そこと併せて、変えるところがあったら一緒に、雨漏りのする天井など直せるところがないかということで今考えているところです。大きな改修は認められているわけでないが、少しずつ直していくことで、より利用者の人が使いやすいようにしていけたらというふうに思っている。

○会長

認めてくれているわけではないのですね、今認めているのはＬＥＤだけ。

○事務局（図書館長）

それもまだ確定ではないが、そのところは個別計画で出しているので。

○委員

建物が古くなってきているので、蛍光灯のコンデンサーの期限が切れている。その交換はどこの瀬戸市の建物でも、古いものは交換しなければいけない時期に来ている。その辺を最初に重点的にやりたいということだろう。

○会長

それをやるためには、しばらく休館するわけですね。照明器具だけだったら夜だけだが、壁を変えたり、がらっとかえようと思うとしばらく臨時休館しないといけなくなる。市のほうの腹のくくり方だと思うが。日本で今トップと言われている浦安の中央図書館は１年間休館して全面改修している。あそこも増築を繰り返して、それでも今の利用に会っていないから１年間休館してやりなおすという。今回は増築なしで改修だけというふうに言われているので、腹のくくり方だけだと思う。そういった意味では、しっかりしたものを１回出した方がいいのかもしれない。

○委員

今こういうことを出していただいて、良かったと思うが、今の形で、単年度での改修を続けていくとこの流れをずっと続けるということになる。結局つぎはぎをずっと続けていく形になる。それは本当に、この図書館の未来のためになるのか。数年市民に我慢を強いたとしても、抜本的に変わったほうが全体としてみなさん納得されると思う。つぎはぎでなく計画作りはしたたかにしていった方がいいのではないかと思います。それが認められる時期に、それに乗せていくというのがいいのではないかと思います。

○会長

別立てで考えてはどうか、ここを使い続けるということ、将来的ジビョンも考えて協議をまた基本計画を考えて、市から求められているわけではないと思うが、必要なタイミングでボンと出せるように用意しておかないとだめな気がする。今までは、新しくできるのではないかと期待を持っていたが、それが赤信号になっているので、この本館を使い続けると考えるのであれば、それについて少し、すぐできることと、時間をかけて構想を練らなければ

ならないこともあると思うので、それをしっかりやるということも作戦としてはありかなと思う。今日はこのお話をいただいたので、委員の皆様には情報が共有されたかとは思いますが、やり方については事務局と相談しながらアイデアをまとめていきたいと思う。内容については事務局に相談しながら、進めていきたいと思う。この場では結論が出ないと思うので、まとまったら、それを委員さんに見てもらう機会をもうけるのはいかがか。

その他に何かあれば。

○委員

改修のことと関係ないが、学校が、2学期から日曜・祝日・夜間は音声案内になってしまった。光陵中学校の図書館は学校の回線を使っているかと思うが、休みの日に一切つながらなくても大丈夫か。

○事務局（図書館長）

いつからか。

○委員

2学期から働き方改革の関係でそういうことになって、夏休み前に案内を出すことになったのだが、7月10日からである。

○事務局（図書館長）

地域図書館の電話番号は公開していない。パソコンをいれているのでIP電話に切り替えることが出来る。IP電話につなげるようにしたいと思うが、光陵だけ遅れている状態である。

○委員

先年度の協議会で涌井部長にお話ししたが、うちの地域図書館が、家庭用エアコンが3台ついて夏はとても暑い状態である。暑すぎて、ビニールシートを仕切って、空間を狭めないとてもいられた状態でないという状況である。その辺りのことも、地域図書館として、地域の方がこんな暑いところはサウナみたいなので行けないとなると困るので、よろしくお願いしたい。寄付で家庭用エアコンが3台ついている状況だが、ここよりも広いくらいなので、全然効かない。前館長にもどのくらい暑いか見に来て下さいと来ていただいて。夏場も学習会を行っているが、とてもではないが、子どもたちは暑くていられないので、ビニールシートを部屋に貼らせてもらって、本のある方がとてもではないが暑いので半分、子どもたちが座るほうだけでも仕切って、エアコンが効くエリアを作っている。夏場の地域図書館はちょっとなあと。

○会長

その他、特にないか。最後のことについては、少し事務局と相談しながら取りまとめて方向性を考えながら行きたいと思う。また場合によっては、各委員に相談するかもしれない。よろしくお願いしたい。
以上で議事を終了する。

4 その他

議長から引き継ぎ、図書館長が進行

○事務局（図書館長）

他には特になので、次回会議の日程についてだが、最後の改修計画について色々ご意見をいただいたので、今後どのようにしていくかということをまた会長と相談しながらお知らせしたいと思う。会議の方は2回を予定しているが、次の1回をどういうふうにするか、どのように皆様から意見をいただくかということを相談しながらまた連絡させていただく。本日はお忙しい中、長時間にわたる会議で、進行にご協力いただき感謝申し上げます。

5 閉会